

2021（令和3）年度審判講習会・研修テスト

次の文章で正しいものには○、誤っているものには×をつけてください。

- (1) 競技役員は、競技をスムーズに進行させるための総務系統を担当する役員と規則に則った審判を行い、その結果の記録および順位を正しく判定する競技系統の役員に分けられている。通常、総務系統と競技系統を合わせて、それぞれの職務にあたるものを審判員という。 (○)

HB・1 公認審判員制度 競技会前の準備に携わる役員と競技会当日の運営に携わる役員の両方を含めて広く解釈している。

- (2) 高校生（16歳から18歳）の時にC級公認審判員を取得していれば18歳になれば自動的にB級公認審判員になり得る資格を持っている。 (×)

公認審判員規定第2条 C級公認審判員制度は2021年度より施行されるが満16歳から18歳までの者が取得する権利を有する。B級公認審判員はC級公認審判員の資格を取得していなくても満18歳に達する者は取得する権利を有する。C級の者も18歳に達すれば新規B級公認審判員と同等の扱いになる。

- (3) C級公認審判員はC級公認審判員だけで競技役員チームを編成できないがB級公認審判員以上の審判員が1名以上ついて指導し、審判技術が向上すれば計測および判定することができる。 (×)

公認審判員規定第7条 本連盟がおよび加盟団体の主催、共催あるいは主管する競技会の審判は補助員を除きすべて公認審判員をもって構成する。ただし、・・・計測および判定についてはB級以上の審判員が必ず1名以上ついて指導を行いながら業務を担う。

- (4) 監察員は審判長のアシストであり、監察員が見た規則違反は審判長に報告し、最終判定は審判長が下すので監察員には決定を下す権限はない。また、その判定に不服を言うてはならない。 (○)

CR20. 1&2 (127-1&2) 監察員は審判長の補佐で、最終判定は審判長が行う。当然ながら審判長の判定に異議・不服を言うてはならない。

- (5) 走幅跳の第1跳躍者が、2回目の全員の試技終了後のトイレに行きたいと申し出たので、3回目の試技の最後に跳ぶように指示した。 (×)

TR4. 3 (142-3) 審判長は1ラウンドに一度、走高跳および棒高跳で各試技に一度、競技会に先立って決められた順序によらないで、その試技を許すことができる。もし、競技者がその後の特定の試技に不在の時、その試技時間が過ぎれば、パス扱いになる。ので認められない。

- (6) セパレートコースで行われる競技種目は予選通過した8名のうち記録順に上位4名は4・5・6・7レーンに下位4名は2・3・8・9レーンになるように番組編成をする。【例】9レーンの競技場の場合 (×)

TR20. 4. 2 (166-4-B) 上位グループ4人(または4チーム)は4・5・6・7レーンに、それに続く5・6番目の中位グループ2人(または2チーム)が8・9レーンを、下位グループ2人(または2チーム)が2・3レーンを抽選する。上位・中位・下位の3つに分けて抽選する。

- (7) 3000mSCのSCはScratch（スクラッチ）競走の略称である。 (×)

TR23. (169) 誰が言い出したかは定かではないがSCはSteeple chaseをただ単にSC≡Scratch（スクラッチ）と間違え、。正しくはSteeple(教会の尖塔)Chace(追跡)教会の尖塔を目指して競走していた由来を理解していないものと思われる。

- (8) 陸上競技場のレーンの幅は1m220と決められているが、内側の1レーンでは縁石の外側300mm、2レーンより

外は左側のラインから200mm外側を走るものとして距離を測定している。 (O)

TR14. 2&14.4 (160-2/160.4) 計測は縁石の外端から30mm外方、そして曲走路において縁石がない場合 (あるいは・・・場合)、ラインの外端から20mmのところを測る。〔国内〕国内の競技場では、代用縁石を置くことから縁石とみなし、30mm外方を測る。

- (9) 3000mSCの水濠を超える際に、バランスを崩して着地の際に右足が水濠の外側地点に着地したが、正規の距離より長くなるので問題ない。 (X)

TR23. 7.1 (169-7-a) 競技者は水濠を越えて、あるいは入って進み、すべての障害物を越えなくてはならない。そうしない場合は失格となる。加えて競技者は、次のことをすると失格となる。

(a) 水濠の外側に着地したとき、(b) 障害物を通過する瞬間、足または脚が…パー水平面より低い位置

- (10) アスリートビブス(ビブス)の新規格は横24cm×縦16cm以内とし、個人を識別する文字や数字等の大きさは縦6cm～最高10cmとする。広告は男女別および種目別に分けることができる。 (O)

TR5.10 (143-10) 従来は横24cm以内とし×縦20cm以内であったが、2021年度の修正があり上記のように変更された。ただし〔注意〕事項あり 新規の場合は作成する場合は上記とするが中体連・高体連には2023年まで条件付きで猶予あり。修正参照

- (11) サークルを使用して行う投てき競技は3種目あるがサークルの直径の大きさは砲丸投が2m135であり、他の2種目は2m500である。 (X)

TR32. 7 (187-7) サークルの内側の直径は、砲丸投とハンマー投は2m135(±5mm)、円盤投で2m500(±5mm)とする。

- (12) 走高跳において、試技を途中で中止しようとして支柱の垂直部分に触れた場合は1回の無効試技となる (O)

TR27.2.3 (182-2) 2. 次の場合は無効試技とする。

・助走して跳躍せずにパーまたは支柱の垂直部分に接触した場合

- (13) 投てき競技ではあらかじめ決められた試技順で、常に審判員の監督のもとでの練習回数は2回と決められており、ウォーミングアップ時間が残っていても競技者の追加練習要求は認められない。 (X)

TR25.1 (180-1) (グリーン) 過去、規則では、各競技者が投てき種目において、各競技者には2回の練習試技が必要であると既定されていたが、今ではそのような決まりはない。規則180-1はウォーミングアップ時間が許す限り何回でも認められると解釈されるべきである。大規模競技会の場合、2回は標準的な練習試技回数だが、これは最小限とみなされ、。時間が許すなら・・・認められる。

- (14) 風向風速に係のある100m・200m、100mH・110mHはスタートのピストルの信号器の発射(閃光/煙)から跳躍(走幅跳・三段跳)競技は助走をスタートして10秒間の平均で風力を計測する。 (X)

TR17.12&TR29.12 (163-10/184.12) 風速を計測する時間は、スターターの信号機の発射(閃光/煙)から次の時間とする。60m 5秒間 100m 10秒間 ハードル(100mH・110mH) 13秒間 200m 10秒間 (先頭の走者が直線路に入ってから10秒間計測する → 信号器の発射ではない) 跳躍(走幅跳40m・三段跳35m)では助走路の脇に置かれたマークを通過する時から5秒間計測する。もし、40mまたは35mよりも短い助走をする場合は、助走を開始した時から計測する。

- (15) 100mの準決勝への番組編成でTICに質問が来た。内容としては準決勝への進出条件は6組2着+4であったので+4の4番目が10秒474で5番目が10秒480であった。100分の1表示では両名とも10秒48の同記録になるし9レーンあるので両名とも準決勝進出できないかという質問であった。 (X)

TR21.5 (167-5) 時間による最後の1枠に同成績 (記録表示は100分の1までなので10秒48) がある場合、写真判定主任は0.001秒の実時間を考慮しなければならない。それでも同じ場合は同成績とする。空きレーンがあるか、走る場所がある(800m競走でレーンに複数割り当てられる場合を含む)のであれば、同成績者は次のラウンドへ進めるようにするべきである。不可能なら、次のラウンドへの進出者は抽選により決める。

- (16) 10種競技の走高跳で、跳躍者が1人になったので、希望の高さに上げて跳躍させた。 (X)

TR26.4 (181-4) 優勝者が決まり最後の一人になったら、バーを上げる高さまたは上げ幅は当該審判員または審判長と相談の上、その競技者が決定する。 [注意] 混成競技には適用しない。

- (17) リレー競技においてオーダー用紙を提出後、メンバーの一人が負傷したので、医師の許可をもらい選手変更の申し出をした。選手が変更されオーダーも変わったので、新たにオーダー用意が提出された。オーダー用紙の提出時間前であったので新たに提出されたオーダー用紙を受け付けた。 (X)

TR24.11 (170-11) リレーチームの編成は、各ラウンドの第1組招集完了時刻の1時間前までに正式に申告しなければならない。一度申告したら、その後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。各チームは申告された競技者がその順番で走らなければならない。

[注釈] 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更(オーダー用紙の差換え)は認められない。医務員の判断による変更は出場選手の変更のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。

- (18) WA規定では個々の競技者の足や要望に合わせて作成した唯一無二の特別の靴(オーダーメイドの靴)の使用は認められていないがクッションを入れたり、足幅を広げたりするのはよい。 (O)

TR5.2.1 (143-2-(b)) TR5に定められた基準を満たす靴を、個々の競技者の足の特徴に合わせて改良することは認められる。しかしながら、競技者足や要望に合わせた、唯一無二のものとしてオーダーメイドされた靴(既製品とは異なり、他に存在しないもの)は認められない。

- (19) ロードレースにおいてトランスポンダーを使用している場合でもトルソーの判定のために決勝審判員の配置やビデオカメラのを準備した方がよい。 (O)

TR19.24.6 (165-24-(f)) このシステムによって決定された時間と着順を公認する際には、必要に応じて、第164条2と165条2を適用する。 [注意] 着順の決定および競技者の特定の助けとなるよう、審判員やビデオ記録を準備することを推奨する。

- (20) マラソンをはじめとする道路で行われる競技はコースの形状や条件が異なることから「日本新記録」という表現ではなく「日本最高記録」・「世界最高記録」という表現をしている。 (X)

CR31-21-1~4 (260-21-(a)~(d)) コースによって条件が異なるマラソンは国際陸上競技連盟(現:WA・世界陸上競技連盟)が記録を公認していなかったため、これまでの記録を上回った記録を「新記録」ではなく「最高記録」と言われていたが、2004年、国際陸連は記録公認の諸条件を整備、マラソンを含む道路競技の記録も「新記録」と表現されるようになった。したがってこれまでのマラソンの記録は「世界最高記録」・「日本最高記録」と称されていたが、2004年以降、他種目同様世「世界新記録」・「日本新記録」と称されるようになった。諸条件についてはルールブック参照

- (21) やり投の選手が助走路の外側に炭マグでマークをしたので、その選手を注意し炭マグも消去した。 (O)

TR25.3.1 (180-3-(a)) 助走路が使われるフィールド競技では走高跳を除いて、マーカーは助走路の外側に置かななければならない。競技者は助走や・・・マーカー(主催者が準備または承認したもの)を2個まで使うことができる。マーカーが準備されない場合、粘着テープを使用することができるがチョークや類似品および消えないマークは使用できない。

(22) やり投の選手が個人所有のやりを持ち込もうとしたが、主催者が用意した投てき用具のリストにあったので受付しなかった。 (○)

TR32.2 (187-2) 本連盟が主催、共催・・・認めることができる。ただし主催者が用意した投てき用具のリストに記載されていない場合で、本連盟検定済みのもので競技前に主催者により検査を受け合格のマークを記したものでなければならない。このときすべての競技者が使用できることが条件となる。技術総務が特に決めない限り、投てき種目に出場する競技者はどの種目であっても2個まで個人使用の・・・。

(23) 混成競技の走高跳において、跳躍者は残り1名のみとなったのでタイマー担当審判員が「制限時間3分」と試技時間を競技者にコールした。 (×)

TR27.17 (180-17) 担当審判員は、競技者に試技を開始するための用意が・・・この瞬間からカウントダウンが始まる。混成競技の場合(表・参照)1人または連続試技の場合、残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳では高さが変わった場合でも適用する。競技時間は2分とする。

(24) 走高跳の記録用紙です。すべての順位をつけてください。(記録用紙に記入する。) (24)

	1m95	2m00	2m03	2m06	2m09	2m12	結果	無効試技	ジャンプオフ	順位
A	× ○	○	○	× ○	× × ×		2m06	2		3位
B	○	× ○	○	× ○	× × ×		2m06	2		3位
C	○	—	○	○	× ○	× × ×	2m09	1	○	1位
D	○	—	○	× × ×			2m03	0		7位
E	○	× ○	× × ○	× ○	× × ×		2m06	4		5位
F	—	○	○	○	× ○	× × ×	2m09	1	×	2位
G	× ○	○	× ○	× × ○	× × ×		2m06	4		6位
H	× × ○	× × ○	○	× × ×			2m03	4		8位

※ ジャンプオフは1回目で決定した。 その高さは 2 m 1 2 優勝記録は 2 m 1 2

解 答 欄

(1) (○)	(2) (×)	(3) (×)	(4) (○)
(5) (×)	(6) (×)	(7) (×)	(8) (○)
(9) (×)	(10) (○)	(11) (×)	(12) (○)
(13) (×)	(14) (×)	(15) (×)	(16) (○)
(17) (×)	(18) (○)	(19) (○)	(20) (×)
(21) (○)	(22) (○)	(23) (×)	(24) 記録用紙へ記入

- TR26.8 (181-8) ① 競技者を比較して跳んだ最高の高さ (同じ高さだった場合⇒ ②
 ② TR26.8.1 最後に越えた高さで、試技数のもっとも少ない競技者 (同じ回数だった場合⇒ ③
 ③ TR26.8.2 すべての試技のうち無効試技がもっとも少ない競技者 (同じ回数だった場合⇒ ④
 ④ TR26.8.3 同じ条件の場合は第1位に関する場合を除き、同成績の競技者は同順位とする
 ⑤ TR26.9.1 【ジャンプオフ】 決着がつくまで、(give up) か最後の高さから2cmの上げ下げの幅
 《例》 2m12を両方がクリア ⇒ 2m14 …… 両方が失敗 2m10 ⇒ 2m08

分類	(中体連 ・ 高体連 ・ 一般)	所 属 (登録団体)
	S ・ A ・ B ・ C 級	氏 名